

トヨタの電気自動車開発の歴史

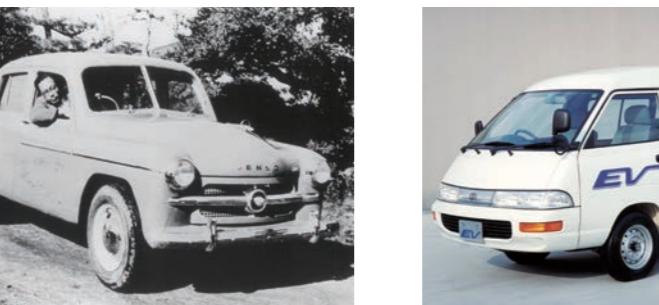
1940



電気自動車（1940年頃）

豊田喜一郎は父・佐吉の蓄電装置に対する期待を受け、1939年に「デンソー」（当時：日本電装）が販売した電気自動車「デンソー号」。電池とシャシーを除き、モーターをはじめとする主要な機能部品は、デンソー内で製造されました。

1950



デンソー号（1950年）

戦時中からのガソリン不足が解消しない中、1950年に「デンソー」（当時：日本電装）が販売した電気自動車「デンソー号」。電池とシャシーを除き、モーターをはじめとする主要な機能部品は、デンソー内で製造されました。

1990



タウンエースバンEV（1992年）

1990年頃から国内で電気自動車実用化の機運が高まり、電力会社や地方自治体で使用できる電気自動車として「タウンエースバンEV」を開発し、800万円（当時）で1992年に販売。電池は市販鉛電池でした。

1996



RAV4 EV（1996年）

1992年にトヨタはEV開発部を設置。米カリフォルニア州が1998年に販売台数の2%をZEV（ゼロエミッションビークル）とすることを義務付けたことに対応し、開発を始めたのが「RAV4 EV」です。1996年に米国に先駆けて日本国内で販売を開始。電池は新開発のニッケル水素電池を採用しました。

2010



e-com（1999年）

電気自動車の普及研究がさらに進められ、安価で短距離走行に適したクルマとして開発した小型EV「e-com」です。共同利用システムのトヨタ社内プロジェクト「Crayon」の実証実験で2012年にトヨタ車体が開発しました。

2020



COMS（2012年）

街の近距離移動に適し、利便性・経済性を両立させた超小型電気自動車。2012年にトヨタ車体が開発しました。コンパクトなパッケージに容量を最小限に抑えた高出力の新型リチウムイオン電池を搭載。2012年12月以降、日米で自治体などに限定導入されました。

2020



C+pod（2020年）

環境に優しい2人乗りタイプの電気自動車です。人の移動における、1人あたりの高いエネルギー効率を追求。2021年からは個人ユーザーも対象にリース販売を開始しました。

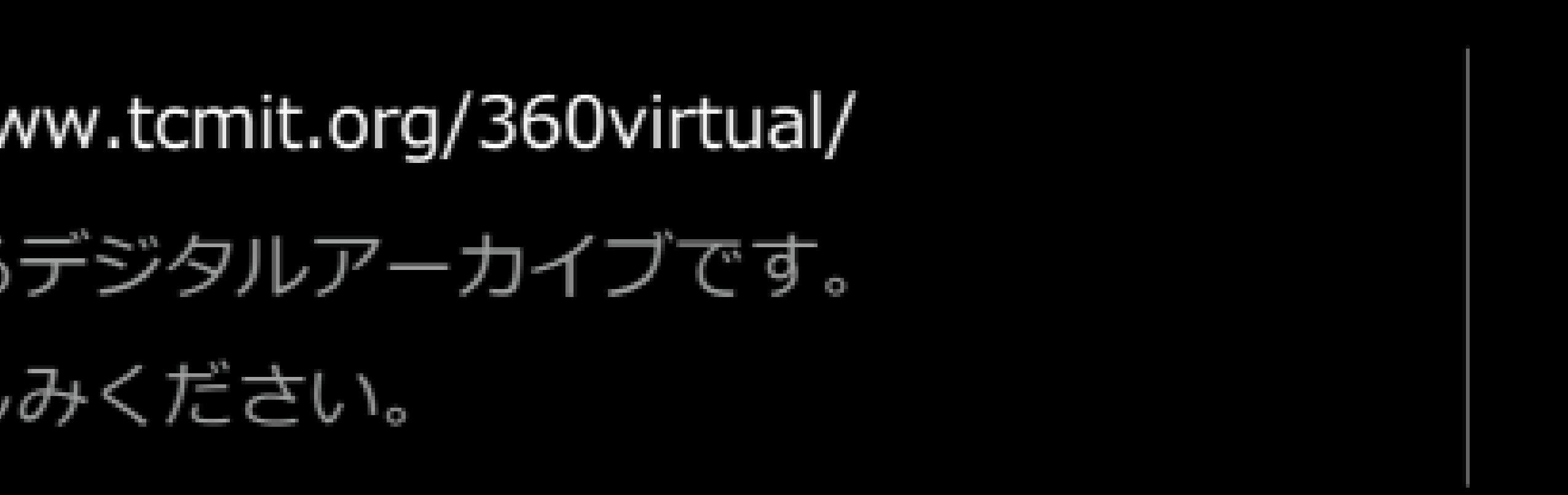
2022



bZ4X（2022年）

トヨタ初の本格電気自動車として開発。グローバルでの多様なニーズに対応するため、電気自動車専用プラットフォームを採用したbZ（beyond ZERO）シリーズの第一段としてSUBARUと共同開発したSUVです。

館内企画展アーカイブ
バーチャル展示室
THE VIRTUAL
EXHIBITION ROOM 360



バーチャル展示室360

> <http://www.tcmit.org/360virtual/>

トヨタ産業技術記念館

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展を紹介するデジタルアーカイブです。

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

360度VRコンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。

Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.

